

## 「晩秋の小石川植物園 (5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

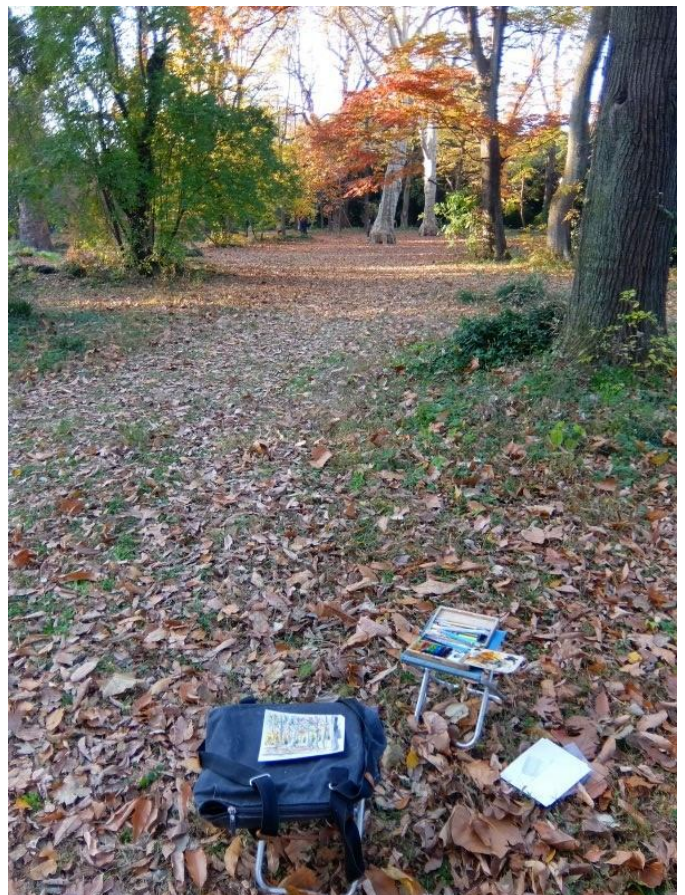
イロハモミジの美しい並木道を抜けると、広々とした森の中に出る。現在の武蔵野台地で、このような森の風景は非常に珍しい。



森の奥の方に白い樹皮の木が2本見える。モミジバズカケノキである。街路樹のプラタナスと同じ種類で、鈴を懸けたような果実がたくさん実る。



この森は美しい。さっそく座って水彩の準備をした。



私のスケッチ道具が入ったバッグには、小さな折りたたみの椅子が2脚入っている。一つは自分が座る為のもの、もうひとつは画材を置くためのものだ。これが少ない道具で落ち着いて描く為には、一番良い方法だと思う。バッグの中には、そのほかにもスケッチにどうしても必要なもの(たとえば、予備の水、膝かけ、ジンジャーエール、ポテトチップス、団子3本入りなど)が入っていて、大災害が起きても、この森で数日間生き残れる装備となっている。



これが私のスケッチ道具である。自作の桐箱は軽く、必要なものはほとんど入っているので、非常に便利だ。